

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| 学校名 | 唐津市立馬渡小中学校 |
|---------------|---|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上) 全員授業公開による授業研究会を継続することで、読解力向上に向けた支援方法の工夫ができた。今後は、新学習指導要領に対応した授業の在り方について継続して研究を進めて、児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげられるような実践を工夫していく。 ●心の教育) 小中合同行事や地域との交流活動等を通じた人間関係づくりや、特別支援教育の組織的な実践について、研修や実践を重ねることで成果を挙げている。今後は、事後の考察等を含めた情報交換と共有を定期的・組織的に行うことで、生徒指導上の問題を、予防・早期発見・早期対応できるよう、継続して実践していく。 ●健康・体づくり) 全校をあげて、学校生活アンケートの活用ができ、教師が児童生徒へ生活面の助言をすることができた。今後は、小学校では、児童の発達段階に合わせた生活振り返りシートの工夫改善を行っていく。中学校では、学活ノートを複数の教員で共有化を図ることにより指導の手立てにつなげていく。 ●業務改善) 業務改善に関する研修や日々の意見交換等を通して、職員間の意識が大きく向上した。今後は、業務改善に向けた職員の意識の更なる向上と、能率的・効率的な業務遂行のための研修を充実させる。 <p>○小中連携) 中学校教員による小学校副担任制や小学校への乗り入れ授業において成果を挙げている。今後は、小中の系統性を持たせた学習習慣の定着とあわせ、児童生徒が夢や目標を持ち志を高めていけるような実践を、発達段階に応じて系統的に取り組めるようにする。</p> |
| 2 学校教育目標 | 思いやりを持ち（徳）、自ら学び（知）、心身を鍛え（体・情）、21世紀を生き抜く児童・生徒の育成 ～自分を愛し、他人を愛し、島を愛する児童生徒に～ |

| 3 本年度の重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上) 新指導要領移行を見据え、単元計画の見直しによる主体的・対話的で深い学びの推進 ●心の教育) 人権・同和教育や道徳教育を柱にした特別支援教育の充実（児童生徒対応力の向上） ●健康・体づくり) 生活実態調査をもとにした家庭と連絡を取り保護者との連携 ●業務改善) 業務改善、きめ細かな指導の充実 <p>○連携) 小中一貫教育による個性の伸長と地域の教育力を生かした教育活動の充実</p> |
|------------|--|
|------------|--|

| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 |
|---------------|--------|
|---------------|--------|

| (1) 共通評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|--------------------|--|--|---|----------|--|--------------------------------------|--|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| | | | | ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 | ●全教員が、「単元を貫く問い」を設定した授業研究を進め、主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動を行う。 ●進路実現に向けた学力保障のため、少人数級数の特性を生かした個別に合わせた指導や補充指導を充実させる。小中中部会で、学力向上に関する協議を毎月実施、朝の活動での確認テストを行う。中学校では、各種テストに向けた効果的な学習方法や出題範囲の広範化などを継続する。 |
| | ○家庭学習の充実 | ○中学校では、学活ノート等に学習記録の毎日記入率90%以上。小学生については高学年のみ生活カードに記入。 ○宿題の提出率を80%以上 | ●家庭での学習の仕方の説明を行い、学活ノート等を活用したスケジュール管理能力を養わせる。学習時間の記録をチェックし、日々の学びの支援を実践していくことで学力の向上を図る。 ●学習内容の定着を意識した家庭学習の大切さについて指導を継続する。「予習—授業—復習—確認テスト」のサイクルでの勉強をすすめる。 ●中学校では、授業中の確認テストやプリント宿題を授業や単元終了時などに出し、授業と家庭学習のつながりを意識した実践を行う。小学校では、家庭学習の習慣化を目指し、学年に応じた宿題(10分×学年 例：10分×6年＝60分)を出す。 | B | ●学活ノートを使い計画的に学習を進めた生徒は90%。 ●宿題の提出率は児童生徒90%(児童100%・生徒80%)。 ●小学生は学年に応じた勉強時間を確保できているし、中学生も宿題を提出するのが習慣化している。 ●今後、思考力をつける課題を宿題に出すことが求められる。 | B | ●宿題の提出率の高さはよい。今後も、子どもが自分事として主体的に取り組めるような指導を期待する。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒30%以上 ○担任が、道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。 | ●道徳の授業を中心に、心の教育につながる教育活動を計画し、実践を継続する。 ●「唐津市教育の日」に合わせて、全学年『ふれあい道徳』を行い、保護者や地域の人へ呼び掛け、参加型の授業を実施する。 | A | ●道徳に関するアンケートに肯定的な回答をした児童生徒96%。 ●心の教育活動を計画的に実践(道徳の授業は100%実施)。 | A | ●以前と比べると言葉遣いが丁寧になったと感じる。 ●男女の仲ともよよしと感じる。 ●挨拶をよく返してくれる。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 ○生徒会を中心として、人権活動を年1回以上行う。 | ●日頃から、児童生徒と関わりをもち、いじめや悩み等を訴えやすい雰囲気をつくる。 ●いじめに対する態度を高め、お互いの気持ちを大切に作る風土づくりに取り組む。 ●職員会議や部会での情報交換や協議を定期的に行い、学校生活アンケートや教育相談週間による情報収集を通して、いじめの予防、早期発見・早期解決に努める。 ●定期的なアンケート調査と教育相談の実施等により、いじめの実態把握をする。 ●児童生徒の実態について、スクールカウンセラーへの報告と助言を受けながら、児童生徒が落ち着いた学校生活を送れる環境づくりに努める。 ●児童生徒に積極的に声掛けをすともにも、様子を把握し、関係作りに努める。 ●自己肯定感と他者理解を高めるために、グループエンカウンター等の授業を学活・道徳の時間に実践していく。 ●年間を通して言葉遣いや人権について考える機会を設け、まめとして人権週間を設定し、人権について考えさせる。 | A | ●いじめや悩み等を訴えやすい環境づくりや勇気づくりに努めており、未然防止・早期発見・事業対処等について、組織的対応が80%できた。(児童生徒・保護者・職員アンケート調査による) ●いじめ防止に関する職員の校内研修を行い、いじめに対する認識を深め、未然防止の対応策について見直しを深めた。 ●毎月1回、定期的なアンケート(学校生活や教育相談等)を100%実施。 ●気になる児童生徒について、スクールカウンセラー(SC)と協議し面談を実施。 ●自己肯定感を高める児童生徒への言葉かけは実施できたが、少人数という特性からグループエンカウンターの実践が困難であった。 ●12月に人権週間を設定し、人権集会等を実施。 | A | ●いじめや体罰など組織的で、かつ予防的な取組は評価できる。 ●人権意識を高め、いじめや悩みなどを訴えやすい取組は評価できる。 ●家庭のことはあるが、ネットで対戦ゲームをしている際、気になる言葉使いがある。 |
| | ○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)生徒(中学3年生・義務教育学校9年生)80%以上 | ●全ての教科等や学校行事等においてキャリア教育の視点を取り入れながら、夢や目標についてキャリアパスポートの活用やマネー検定を通し自ら考えさせる時間や場面を設ける。 | A | ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小6)生徒(中3)は100%。 ●キャリアパスポートを活用し目標を立てたり、マネー検定を通し自分の将来を考えさせた。 ●「目標の樹」という、個人で目標を立てる活動を毎学期実施。 | A | ●島内在住の養蜂家や島外のイチゴ農家などに訪問調査を行うなど、職業観を養うことにつながる取組は評価できる。 |
| ●健康・体づくり | ●「望ましい生活習慣の形成」 | ○生活アンケートなどにおいて、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると回答した児童生徒90%以上 ○生活アンケートなどにおいて、「健康のためには規則正しい生活をするのが大切である」と回答した児童生徒100% ○1日30分以上体を動かす児童生徒90% | ●「起床」「就寝」「食事」など、規則正しい生活習慣の定着を目指すことを継続する。 ●月目標を設定し、それを意識した学校生活を心がけさせることを継続する。 ●学活ノート等に生活記録を記入させ、生徒の生活実態を把握する。児童においては、児童の様子を観察や会話などから生活実態を把握する。また、家庭と連絡を取り保護者との連携を図る。学級活動で生活習慣を見直す機会を設ける。 ●学級通信等で児童生徒の実態を家庭へ連絡し、連携を図る。 ●週に1回、小中合同で遊ぶ日の設定をし、多くの児童生徒が体を動かすように促す。また、小学校においては、児童全員で遊ぶ日の設定もする。その時に教師も参加し、体を動かすことの楽しさを感じさせ、体力の向上を図る。 ●朝食摂取調査を実施して状況を把握し、家庭と連携して指導する。 ●全校朝会や小中学校別朝会などで、実態に応じた栄養指導を行う。 ●「食に関する指導」を学級活動や保健分野の中に位置付け、児童生徒に指導をする。 | A | ●基礎的生活習慣の定着は90%達成。 ●保健便りや学級通信等で保護者への周知を図った。 ●1日30分以上体を動かす児童生徒は90%達成(生活学習アンケート結果)。 ●生活アンケート等十分ではない部分があったので、他部と連携していく必要がある。 | A | ●睡眠や健康維持など基本的な生活習慣づくりへの取組は評価できる。 ●家庭でゲームに費やす時間については、ゲームが体調に及ぼす影響について理解を深める取り組みを期待する。 |
| | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○児童生徒の朝食摂取率100%を継続 | ●朝食摂取調査を実施して状況を把握し、家庭と連携して指導する。 ●全校朝会や小中学校別朝会などで、実態に応じた栄養指導を行う。 ●「食に関する指導」を学級活動や保健分野の中に位置付け、児童生徒に指導をする。 | A | ●児童生徒の朝食摂取率100%達成。 ●今後も学級活動や小中別朝会での指導を継続していく。 | A | ●子どもたちが食の大切さを理解していることは評価できる。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ●定時退勤日の設定(毎週水曜日) ●学校閉庁日の設定(市教委の指導) ●部活動休養日の設定(本校「運動部活動等の在り方に関する方針」による) ●企画委員会を中心として、行事・企画を精選し、学年等が活動しやすい環境づくりをする。 | A | ●全職員の時間外勤務時間の平均27時間50分。 ●部活動の週2日以上休養日達成率100%。 ●文化祭の半日開催や入学式・卒業式などの短縮開催等でも目的を達成。 | A | ●手段を効率化する働き方改革推進の取組は評価できる。 |
| | ○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施 | ○意識調査において、ICTを積極的に活用できると回答する教員90%以上 | ●共有フォルダを活用して、様式・業務データの共有化を図り、効率的な業務遂行に努める。 ●ICT活用に関する職員研修等を通して、電子黒板や学習用端末等のより効果的な活用方法について研修し、教職員のICT活用スキル向上を目指す。 ●電子黒板及び電子教科書を効果的に活用する。 ●ICT活用に関する職員研修を実施する。 | A | ●電子黒板や校務用PCなどICTを積極的に活用できていると回答した職員が91%。 ●Ciscoを活用した職員研修の実施。 | A | ●授業を参観した際も、電子黒板を効果的に活用した授業が見られた。 |

| (2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|-----------------------|-------------------|------------------------------|--|------------|---|--|---|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| | | | | ○連携(小中・地域) | ○小中学校職員の協働による教育実践と学習習慣の向上 | ○中学校教員による授業や学活の時間等を好意的に受け止める児童の割合が80%以上。 ○学習習慣・学習時間が向上した児童生徒の割合が80%以上 | ●中学校教員による乗り入れ授業と小学校副担任制の充実を図る。 ●中学校のテスト期間を「家庭学習充実週間」と設定し、各種たより等で家庭の協力を得ながら、児童生徒ともに家庭学習に励ませる。 ●強化週間(年3回)を設定し、児童生徒へ学習規律「まだらっ子スタイル」の浸透を図る。 |
| | ○島民参加を促進する教育活動の実践 | ○学校行事や授業への島民の参加者数が児童生徒数の2倍以上 | ●体育大会に島民参加の種目を設定したり、文化祭に島民が出演する時間を設けたりする。 ●島民に、ゲストティーチャーとしての授業参加や、調査活動・インタビューなどへの協力依頼を行う。 | A | ●ギター演奏活動では島内の方に講師を務めていただいた。 ●調査活動では島民にインタビュー活動を行い、島の環境保全について理解を深める活動を実施。 | A | ●コロナ禍、前向きに開かれた学校経営に取り組んでいることは評価できる。 |

| ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 | | | | | | | |
|------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> ●未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成する「単元を貫く問い」を中心に据えた校内研究を推進できた。次年度も研究を継続・深化していく。 ●道徳科を中心に心の教育を推進できた。また、子どもが相談しやすい雰囲気づくり・体制づくりも実践できた。次年度も自他を尊重する態度・実践力を養っていく。 ●次年度も子どもたちが生涯にわたって健康を維持するための食習慣・生活習慣づくりの取組を継続していく。 ●学校行事の目的を達成し、また、ICTを活用しながら授業の質を低下させない働き方改革を推進することができた。次年度も手段の改善に取り組んでいく。 ●中学校教員による小学校副担任制や、小学校への乗り入れ授業において成果を挙げている。また、コロナ禍でも地域へ開かれた学校経営を実践できた。次年度も小中教職員同士、地域と教職員との連携強化を図っていく。 | | | | | | |